

第8回西谷地区学校づくり検討委員会

会議概要

開催日時	令和7年(2025年)2月19日(水) 15:30~17:10
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】17名(欠席)3名 【教育委員会事務局】6名 【傍聴】5名
次第・議事	1 開会 2 会議の成立及び公開について 3 報告 (1) 小規模特認校先進事例視察について (2) 令和7年度特認校制度募集結果について (3) 令和8年度特認校制度募集について 4 議題 (1) 令和7年度以降の西谷地区学校づくり検討委員会について (2) その他 5 閉会
会議の主な結果	地域との連携等、西谷の教育活動については、学校運営協議会(以下、コミスク)に議論を移行していく方向が考えられるが、次年度については、特認校制度の対象が全学年に拡げられるにあたり、制度の成果や課題を検討するため、引き続き本委員会を開催する。制度の先進事例の視察報告も参考にしながら、広報やさらなる魅力発信の充実を図っていく。
会議録(概要)	
委員長	【1 開会】 【2 会議の成立及び公開について】 委員20名中、出席17名、欠席3名。過半数の出席があり、本日の会議は成立していることを報告する。本日の議事等において、個人情報等に関する事項はないので公開とさせていただく。本日、傍聴を希望されている方は5名である。
副委員長	【3 報告事項】 (1) 小規模特認校先進事例視察について 姫路市立蒔野小を選定した理由: ・学校規模が西谷小と似ている ・交通事情が似ている。(最寄り駅が遠い。保護者の送迎が主な手段。補助金等なし) ・人気があり、学区外の人数が年々増えている

参加者：

計13名（コムスク会長、学校応援団1名、PTCA 保護者7名（まち協未来の学校を考える部会4名・PTCA役員3名）、小・中学校の両校長、教育委員会教育環境整備課1名、学校教育課1名）

学校概要：

- ・今年創立150周年
- ・姫路市は宝塚市とよく似た地形
南部の方が繁華街で、奥まった北部山林地帯に苅野小、さらに北にもう1つの小規模特認校である安富北小がある
- ・最寄り駅は JR 姫路駅で車で40～50分。バスはほぼない
- ・西谷小学校と変わらない学校規模。
- ・昨年度（制度導入初年度）当初45名（年度末52名）。
- ・今年度（制度導入2年目）当初52名。年度途中7名増で59名（校区内29名、特認生30名）
- ・今年度は3・4年が複式。来年度には複式が解消する予定

<質問1：苅野小学校の魅力の打ち出し方、具体的な授業や教育プログラムとは>

魅力① 豊かな自然環境

- ・伝統的に校区内の自然環境を利用した教育活動が行われていた。
1・2年生活科で「川遊び」 菅生川での体験学習（魚とり）、
3・4年総合で「米づくり」 田植えと稲刈り、餅つきは全校生で体験、
5・6年総合で「苅野の魅力再発見」 地域の史跡や菅生川へフィールドワーク。
- ・すべての学習で、地域人材を活用、地域の支援を受けている。

魅力② 少人数指導

- ・少人数というだけで力を持っている、と感じる。
- ・変なことはなくていい 少人数そのものが特色である。
- ・子どもたちが受け入れる。ここに来ればみな、苅野の魔法にかかる。苅野色と外からの色が混じり合うのでなく、みんなが苅野色に染まり、見分けがつかなくなる。

<質問2：子どもたちが主人公の学校づくりをされている？児童集会の取組は>

①縦割り班活動を軸に、1年間を見通した活動計画にしている。

4月の1年生を迎える会・歓迎遠足→縦割り班遊び・定例児童集会（隔週）
→運動会→お別れ遠足（今年が初）→6年生を送る会

留意点：気持ちが途切れないように活動の間隔（月に数回）を考える。

児童が自由に使える休み時間は使わない。必ず授業等の時間を使う。

そうすると下の子の面倒を見てくれる。

清掃活動などの児童にとって楽しくない活動には使わない。

②6年生を活躍させることを大事にしている。

学校行事など児童が主体となる活動では、6年生をできるだけ前に出している。

例)運動会:開会宣言、閉会宣言、宣誓、旗手、応援団長、

閉会式の終わりの言葉(校長は削除)

始業式:児童代表あいさつ(意気込み)

終業式:児童代表あいさつ(振り返りと次への思い)

留意点:あいさつでは誰が言っても同じような言葉にならないよう、「私は」を主語にした思いを話すように助言している。

6年生全員がどこかで活躍できるようにしている。

上学年が下学年をいたわり、下学年が上学年を尊敬する関係づくりを目指している。

③集会活動

班ごとに目標を設定し、目標に向かってメンバーで協力して取り組む内容にしている。(班対抗で争う、とか順位をつける、という要素はできるだけ排除している。)

結果に応じて「あぞピーポイント」を集める設定にしている。

実践例:人間知恵の輪、フラフープ送り、ジェスチャー伝言ゲーム、くつとばし、連想ゲーム、新聞紙乗り、似顔絵クイズ、スーパーアソノパーティー(ボール送り、船長さんの命令)

<質問3:熱心な先生が異動しても学校の魅力が続くよう、どう工夫しておられるか>

- ・すぐく熱意のある先生がいるのかというと、そういうのではないようにしている。
- ・誰が来てもいいようにしていて、個に期待しないカリキュラムづくりをしている。

<質問4:PTAの関わり方は>

- ・普通である。非会員はゼロである。
- ・毎日のように更新されているインスタやブログは、PTAの仕事ではない。
元役員の方が自らしておられる。学校は依頼を受けて写真を提供している。
写真の顔出しについては、全児童から予め了承を得ている。
- ・スクールサポートスタッフ(元PTA会長)が「あぞピー」の発案者で、様々な掲示物等、仕掛けづくりをされている。
- ・校区内外の差は設けていない。制度1年目だけは、役員は校区内保護者のみとしたが、2年目からはそれも撤廃した。蒔野を選んで来ておられるので協力的である。
学区外の方も2か月に1回19時からの会合に、無理のない様子で出席されている。
土曜の草抜きや廃品回収等については、学区外の方に「来れる方は、でいいですよ」という声かけはされている。
- ・役員はくじで決める。ふたりの副会長のうち、ひとりが翌年度の会長を務める決まり。
- ・活動としては、給食会、オープンスクール受付や駐車場案内、150周年学校キャンプ

- ・地域の行事や祭りで特認校のアピールブースでは、学区外から通っている特認生の保護者に立ってもらっている。来場者が質問や体験談を聞けるようにしている。
- ・地域での活動主体は「苅野応援団」。PTA は協力団体という程度。

<質問5:地域の関わり方は>

- ・地域の主体は「苅野応援団」（自治会中心に 駐在所、郵便局、公民館、有志）。
- ・連絡については応援団を介してではなく、学校から個別に直接が多い。
米づくりの方は応援団には入っていない。
神社関係は地域の宮総代、川遊びは川の近くのお家（トイレを使わせてもらう等）。
- ・地域イベントとオープンスクールを連携させている。
- ・地域協議会会長が応援団長を兼任している。

<質問6:市教委の関わり方は>

- ・人目的・金銭的助成なし。通学にかかる補助金等なし。
- ・学校地域協議会を年3回ほど開催。メンバーは苅野応援団、自治会長、公民館長、老人会長、民生委員、PTA 会長副会長、校長、教頭、市教委である。
- ・広報・募集を担う。

<質問7:募集方法・児童の受入れについて>

- ・中心は2学期の3回のオープンスクールで見学・授業体験・面談を行っている。
その他に、平日に随時個別に対応している。（一斉の説明会はしていない）
- ・子どもの気持ちが大事。そのために体験授業・面談を必須としている。
- ・唯一困ることは、早く転入したがる児童がいること。
- ・募集の締切を11月末に設定しているが、その後も希望があれば受けつけている。
- ・体験授業を受け、苅野小に行きたいという子どもの気持ちが強まる。翌年4月を待てない子がいる。学校に行けないでいるくらいならと、受け入れている。給食の切替など事務手続上最低2週間ぐらいかかるけれども、大体受け入れている。
- ・初年度にある程度入ってきたので、2年目は希望者数が落ち着くかと思ったが、そうではなかった。実際に学区の学校行ってみて、やはり行きにくくなったりなど、年度途中の転校を望まれるケースが一定数ある。
- ・他の学校でやっていないようなことはやっていない。大人数の今の学校に通いづらくて苅野小に来た子が多い。ただこちらに来て苅野の集団に入ったら、すごくみんな変わっていく。苅野の魔法がかかる。
- ・環境が変わるだけで、少人数になるだけで、課題が軽くなり、問題なく通えるようになる子がいる。
- ・学区外の子どもたちにとってだけでなく、学区内の子どもたちにとって非常に良い環境になっており、制度を取り入れてよかったと感じている。

副委員長	・今まではすべて受け入れてきたが、1学級15名が限界かなと感じている。今後は、断ることもでてくるかもしれない。 まず大きな垂れ幕というかカラーの看板があって、「おいでよ! 蒔野小学校へ!」と書いてあった。よく見たら端下の方に、前校長先生が寄贈したとあった。 授業見学させていただいたところ、事実上ほぼもう単級でやっていて、音楽や体育など大人数でやった方が楽しいとか、いろんなことに取り組める教科では他学年と合体してやっている形だった。 この学校を支えている魅力としては、やはり地域が大きいなと感じた。「蒔野応援団」という人たちがいるとのこと。とてもおおらかな雰囲気、あぞぴーというキャラクターにも代表されるように、皆さんが協力的で、いろんな行事を学校に協力しながらやっていて、いろいろ掲示がしてあって、すごく面白いなと思った。 2月15日の朝日新聞に、幼稚園から高校まで姫路市が一貫型の探究学習を来年度から進めていくという記事があった。高校の再編が進んでおり、県立高校もいろんな特色を打ち出さないといけないというところで、これは高校だけでやるのではなくて、幼稚園時代から、自分で考えて課題を見つけて学んでいくという探究型の教育を進めているということだった。おそらく蒔野小学校も、この流れできっと教育内容が非常にマッチしていくのだろうと思う。できれば西谷中学校も、できれば高校で探究の授業を中心に取組をやっている先生を呼んで、話を伺い、中学校の特色を考えていくような機会を持てたらいいなというふうに思った。
委員	学校に入った第一印象が「すごく明るい学校だな」だった。子どもたちが明るいだけでなく廊下や階段1段1段の掲示などが。これから西谷 PTA もいろいろ変わっていかなくちゃいけないところに来ており、PTA の話も聞けて参考になった。
委員	同様に私も明るいと感じた。体育館の窓も大きく、外の景色が見える状態で開放感がすごくあり、子どもたちも元気に走り回っていた。地域の人々がすごく学校を盛り上げているのも感じ、少人数ながら、すごく活気のある学校だと思った。
委員	校区外の人がそんなにたくさん来るのは何故なんだろう、それを見たいと思う気持ちで行かせてもらった。自分が一番感じて帰ってきたのは、うちの子ども(30歳ぐらい)世代が小学生の頃にその地域でやっていた地域交流が、そのまま残っている学校という印象だった。 一番の変化は、土曜日に学校が休みになったことである。地域の行事は土曜とか日曜日が多い。でも、学校は土曜日が休みなので、子どもたちと地域が一緒に何かしやうってなったときにそこが一番ネックなのだろうと感じた。 例えば、老人会の人たちとの交流、お米づくり、餅つき大会。どれも今までここでもやっていたような行事で、主に土曜日にやっていたようなことである。それらを小さな学

委員	校だから地域の人と一緒に今なお継続しているというのが魅力で、校区外から集まってこられるのかなと思った。特色というか、別に取り立てて西谷の小学校でやっていることと、そう大差ないなと感じた。 例えば1・2年：川遊び、西谷では町探検。3・4年：米作り、西谷では丸山湿原。5・6年：魅力の発見、西谷ではちまきと里山。それぞれ中身は違うけども、やっていることはあんまり変わらないのかなと思った。 それに加えてここには園小中の連携があり、運動会も一緒にやっている良さなどがあるので、それらを生かしながら、今既にやっていることを魅力としてアピールしていけたらよい。
委員	ちょうど運動場を見た雰囲気は西谷とそっくりだった。盆地で山に囲まれていて、運動場はかなり広かった。学校の前に見かけは結構新しい感じの集落があって、少し離れたところに田んぼと農家という感じの家があったが、実は結構空き家がある、ということだった。 郵便局とか消防署とか、いわゆる官公庁みたいなものが集まっているところが学校のすぐそばにあり、行事の際には「一緒に何かやりましょう」という話がすぐつくというようなことを言われていて、そういう意味でも西谷と雰囲気がすごく似ていると感じた。 授業を見学した際、外国籍の方も居る様子に見え、それも自然体で、いい雰囲気の学校だと思った。人数は少なくとも子どもたちが生き生きと元気にしている、そういう部分が、西谷と本当に似ていた。 人が替わるとできなくなるのではなくて、脈々と受け継がれている地域と学校が繋がっている西谷の良さを大事にしながら発信していきたい。 課題としては、我々とも共通するもので、限られた集団の中なので世間を知らないようなところがあったりすると。修学旅行は3校合同で行くが、部屋割りや行動は別々とのこと。 中学校では近隣3つの小学校が一緒になるそう。校区外から来ている子は、中学も田野小から上がる中学校を希望したり、私立に進学したりで、元の校区の中学に進学したケースは今のところないそう。 普段学校に行きにくい子どもでも、環境や外部の要因が変わることによって、可能性が開いて、学校に来られるようになったりとか、課題が克服できる場合がある。教育の環境って非常に大きいなと感じた1日だった。 ただし、人数的には幾らでもいいわけではなく、校長先生の考える最適値は15名で、これを超えてはいけないということをおっしゃられたので、確かに西谷でも似たようなところがあるため、15名までを方針としてくれたらありがたい。
事務局	色々伺う中で、「あえて変なことをしなくてもいい」という言葉がすごく印象的だった。

事務局	どうしても新しいものを取り込むときに、焦りが出たり、力みの部分が出てしまうものがあるが、苅野の方でも、今持っている財産を大切に活用しているという話を改めて伺い、今後、学校教育課も西谷での教育活動の内容を話していく中で、西谷が今持っているものを大事にして発信していくという連携をさせてもらおうと、改めて思った。 川遊びや米作りの話があったが、これらは前からやってきたことで、特認校制度のために新しく始めたことは何もないと。西谷の同じように、今までも地域に協力いただいてやってきたこと、それを謳っているだけで、おっしゃっていたように力んでいない、無理のない、ありのままの苅野に外部から人が来て、集まってきているという形だった。 子どもたちが抱える課題は、環境を変えて苅野に来るだけで10分の2ほどになると。では苅野として全く負担が増えないかというと、ゼロではなくて多少の負担増はあるんだけど、外部の子が来ない方が良いかと言ったら絶対そんなことはなくて、こうして外部の方が来られたこの人数の増えた苅野っ子たちを見て本当によかったと思うと、絶対に受け入れてよかったと思うと語ってくださり、本当にお話が聞けてよかった。 みんなが苅野色に染まると聞いたが、確かに見学に行き話しかけてくれた子どもたち、誰が学区内か外か全く見分けがつかなかった。本当に「みんなが苅野っ子だ」と、おっしゃったとおりだった。
委員長	視察に行っていたいただいた方々とその報告に感謝する。 非常にいい印象を持って帰ってきていただいているということはよくわかったが、西谷と苅野の取組の違いは何なのか。というのは、苅野では1年目から22名の特認生が入ってきたと。西谷では1年目は1名である。その違いは何なのかを聞いてみたいと思う。
委員	送迎をされているお母さんお父さんは、仕事をされているのかどうか。それによって送迎できるできないがあると思うので、もし分かれば教えていただきたい。
副委員長	仕事の有無については聞いてこなかった。申し訳ない。 西谷は、1年目は新1年生のみの募集としたが、新1年生の場合はまず学校に、自分の学区の学校に行ってみる方が多いと言われていた。2・3年生以降の中学年ぐらいから、なかなか自分の学区の学校に合いにくいとか、行きにくいとかいうそういう子たちが目を向けてくるということだった。 初めて完全複式になるからということもあって、初年度は小学校1年生のみとしたことが違いではないかなと思う。
委員	私は別の視点で、体験授業というのが大きいのかなと感じた。体験した子は、翌年度を待てずにより早くの転校を望むとおっしゃっていたので。

委員	授業見学はしてもらったが、教室に入らず外から見られただけの方もあった。見方はそれぞれであるが、見るだけよりは、一緒に遊んだり、一緒に授業を受けたりすれば、よりもっと伝わる場所があるのではと思う。 昨日、「どうして外からたくさん来られるのか」という質問をした際、最初に校長がおっしゃったのは「少人数だからですよ」だった。やはりいろんなストレスを抱えている子が、「少ない人数のところに居られるかもしれない」という思いを持って、まずは見に来られると。 西谷も、1年目は初めての完全複式であるため「1年生とその兄弟」としてもらったが、来年度の募集は全学年の予定である。そうすると、やはり今の学校で過ごしにくいと思っている子とか、不登校傾向であまり学校に行けていない子が来るだろうと思う。 その時に、親の思いで来る子は多分うまくいかない。その子が気に入るかどうかが大事。今年も兄弟として見学と一緒に来られた子が、休み時間にしていたサッカーを見て「やりたい」と言って仲間に加わる場面があった。そのように、何か休み時間の遊びでもいいし、ちょっと一緒にできるようなことがあったらいいのかなとは思っている。
委員	視察報告を聞いて、これまで何か特色をと、英語がしゃべれるようになる学校とか、極端な話で言うとロケットを飛ばすことについて学べる学校とか、そんなことをしなくてはいけないのかなと思っていた。しかし、皆さんの報告を聞いて確信できたのが、我々が今やっていること、そのままでいいのだと。町の学校も経験されてきた校長が「特色教育、西谷は十分やっていますよ」と言われていたが、我々、地域の者がそれに気がついていなかった。 先ほど話にあった土曜休みについて、我々は土曜・日曜にイベントをすれば来てくれるという考えていたが、先日のイベントの参加者は少なかった。子どもが来ていない。地域と小学校中学校の連携、夢プラザより学校・体育館を使う等、そういうことも考えて行かなくてはと思った。昔は、田植えも稲刈りもいろんなことをしていた。そういう連携がだんだん薄れてきていると気づいたので、我々も学校と関わり合っていきたいと思う。 筋野のパンフレットを見ても、やっていることは西谷と同じなので、体験入学等いろいろやっていったら、もっと増えるかなと感じた。 今日来ておられる地域の方もあわせて、もっと学校に関わって行って、特色ある教育はもうできているという自信持ってやっていければと思う。 保護者の送迎がしんどいだろうからタクシー等考えていたが、筋野では送迎の問題はなかったようだ聞いた。
委員長	私も公共交通の対策会議の方もさせていただいており、2月に会議をした時に一番議論したのが、子どもの通学の足の確保、来てもらえる人たちの足の確保についてだった。今回、視察に行っていたら、保護者がすべて送迎されていると聞いた。実際の負担感など、特認校制度の継続のため、その辺りが聞けるとより嬉しい。

委員	特色ある学校づくり、このことについて意見書を出すときに、すごく熱を込めて言ったが、もうやっているということであれば、では何が問題かというところ、もう少し伺えればと思う。 先ほどあったように、体験授業が大きいと思う。「やっぱり遠いから」という辞退理由の保護者の方が多かったと聞いたが、もし子どもが体験したことで、西谷の子とも仲良くなり、「西谷に行きたい」となれば、親としては、子どもの気持ちを優先できる。きっと「遠いけど子どもが行きたいなら頑張って送り迎えしよう」となる。もし、私の子どもが同じ立場だったとしたら、母親として、子どもが学校に行けないで毎日家に居るとか、家に残して仕事に行くとか、ものすごく不安だと思う。子どもが学校に行けるようになるなら、大きな不安が解消されるから、その1時間は大変だけど、私なら送れると思った。 蒔野のチラシに載っている転校生の保護者の声に、「毎日の送り迎えの車内の時間が、親子の時間になっています。」とある。その1時間を大変と思うか、コミュニケーションがとれる時間となるかの違いもあるのかなと思う。 それから宣伝の仕方。前 PTA 会長が今Instagramで学校を宣伝してくれている。それは仕事でなくて趣味。ご自分が好きでされている。毎日のように更新していて、うまく宣伝してくれている。やはり今の私たち世代の母親は結構Instagramを見ているので、それで「こんな学校なんだったら行ってみよう」みたいなクチコミも、人数が多い理由であると思う。 もう一点は、姫路市と宝塚市の人口の違い、母数の違いもあるのかなと思う。
事務局	確かに、姫路市内には60校の小学校があると伺った。宝塚は23校である。
委員	姫路は、神戸について県下2番目の人口の政令市であり、母数が多いのはもちろんであるが、姫路市には西谷のような地域も結構あって、隣の校区から来ているという子もあるようなので、そういうのも少しあるのかなと思う。 南部の人から見たら、西谷はものすごく遠く感じておられるのかもしれないが、意外とそうでもない。実際、30分あったら山本まで行けるわけで、チラシを作る際に「西谷遠くありませんよ」「通学大丈夫ですよ」とかというのも少し入れつつ、ハードルを低くしてあげたらいいのかもしれない。
委員長	限られた時間であるが、視察を行っていただいて、たくさんの意見をいただき感謝する。一旦この報告についてはここまでとし、次に移らせていただく。
事務局	(2) 令和7年度特認校制度募集結果について ～資料に沿って説明～

委員長	令和7年度募集については秋ごろの制度の導入というところもあり、オープンスクールや学校見学会・説明会等の検討ができず、個別対応となった。令和8年度の募集については、学校と相談しながらこのような機会の設け方や時期について検討していく。 このたび1名の入学があるということで、大事に迎え入れて、その結果が次に繋がるようにぜひ、皆様のご協力をいただけたら嬉しいなと思う。 今の説明について、何か意見・質問等あるか。
副委員長	本日、小学校から1年生の授業数が多すぎるので、新1年生は5月末まで給食を食べて帰宅になるとの説明を受けた。南部の新1年生は給食もなく帰るのが通常であり、給食があるだけありがたいが、西谷の場合はかなり手厚く見てもらってきたのだが、5月末までは給食までとなることに関して、外部から入学されるご家族は了承されているのかなと、せっかくだったらもうちょっとなじめるように昼休みまでおれた方がいいんじゃないかと、少し心配している。
委員	来年度入学してくる1年生の入学説明会が終わり、地元の子の保護者にも特認で来る子の保護者にも、そういう状況はちゃんとお伝えして、了解いただいている。南部の学校は4月入学してから大体10時半頃で帰るのが1週間ぐらいあり、少しずつ伸ばしていったって、5月の初めから中頃ぐらいまで給食がなかったりするが、西谷では最初からしっかりある。 今回、1年生を4時間目までにしたというのは、今度1・2年生が複式となるにあたり、ひらがなや数字を習ってない子と、すでに漢字も習って、足し算引き算の繰り上がり繰り下がりもやっている子が、同じ教室で先生1人で教えることになる。ひらがなから教えるので、どうしても1年生に手が割かれる。そうなると、2年生の方がちょっとそこで置いていかれないかと心配し、5時間目は担任がしっかりと2年生だけに関わる時間として確保しようと考えた。 1年生の授業を数見たら、年間で80時間ぐらいオーバーしているので、そこはゆっくりやってもいいかなと考えての変更で、来年以降も複式が続くならそのようにしていこうと考えているが、外部からの子は送迎にも時間がかかるので、やはり子どもの様子を見ながらやっていくのが必要であると考えている。
委員	送迎の件、去年の募集のチラシの中に武田尾からのバス代の負担はいらないという記述は入れていたか。
事務局	募集要項そのものには入れずに、特認校制度Q&Aに記述していた。

委員	やはり完全に家庭で送迎しなさいというよりは、例えば、武田尾まで電車で来たらそこからは西谷小までの定期券が配布されるくらいは載せてあげた方が、学年の大きい子ならバス通学を検討できるのでよいのではないかな。 蒔野小では全員が保護者の送迎とのことだが、送迎できる人がいないから行きたくても行けないという家庭は、蒔野にもあるはずである。だから、やはり西谷にしても、送迎は家庭の責任でと言うにしても、公共交通やボランティアを利用して等、何かしらの対策を引き続き検討はしているという内容を、実現するかは分からないが検討しているのは事実なので、少し入れてもいいのではと思う。
委員長	募集要項については、4～6月あたりでまとめていけたらいいなと思う。
委員	授業を体験するのがとてもいいことだなと思う。先日、西谷小の参観日があった。先生方がガイド学習というのに力を入れておられ、子どもたちが授業を進める、自分から学んでいこうという学習を、すごく大切にされていて、それが少人数では必ず一人ひとりが発表もするので、とても良いと思った。交通費の補助等がなくても、子どもたちが自分から考えて、学習する力をつけられるんだと感じてもらえたら違ってくるかもと思った。
副委員長	案内にガイド学習を入れてもいいくらい。子どもが司会しながらやる授業の様子を。
委員	すごくいいと思う。
委員	私はこども園の保護者としての立場で話させていただく。南部のお母さん方とお話する機会があったときに、まだ募集前だったと思うが、西谷がこれからこうなるとい話をした。お母さんたちの中には西谷に行った方もおられるし、行かれてない方もおられて、行った方は、「すごいいいところ」みたいなことをわいわいと話をされていた。幼稚園の保護者にどこまで伝わっているのかなとか、アピールができていいのかなどというのはちょっと疑問に思った。 またよく末広公園とかで何とかフェスといったようなイベントがある。ああいうところで、例えば蒔野の横断幕みたいに、「西谷においてよ」みたいな感じのことがパッと見えたら、「何これ？」みたいな感じになるかもしれない。小学校に行きづらい子もそういうイベントごとには行けたりするだろうと思うので、そういうところで、きょうだいで「行ってみたいね」みたいな話題が少しでも出たらいいのかなと思った。
委員	どうやって西谷小学校にたどり着けるのかをイメージできるような、宝塚駅から武田尾駅まで何分、武田尾から阪急のバスで何分とか、具体的な数字を入れた通学の方法を入れたらどうか。西谷小中学校の子どもたちが実際に使っているバスで、帰り武田尾駅まで乗って、そこから電車に乗ればよい、みたいな。「遠いけど、でも、行けないことはないかな」というようなそんなイメージを持ってもらえたら。

委員長	西谷に住んでいる人たちは、そもそも駅まで遠いし送迎が必要だが、市内の人たちは学校までは徒歩で行ける状況から、電車とかバスとか使わなきゃいけない状況に来るとなるとハードルが上がるので、なかなかやはり交通の面が悪くなる方を選ぶのは難しい。だから何かスクールバスでなくとも、学校と駅を結ぶものがあったら、もっと来てくれるのかなと思う。 まだたくさん意見あるかもしれないが、会議を進めさせていただく。 【4 議題】 (1) 令和7年度以降の西谷地区学校づくり検討委員会について 皆さんのご協力を得て、会議を重ね、夏に、教育委員会の方に意見書を提出することができた。この特認校制度を西谷小中に導入をさせていただき、募集をしていたとき、そして結果として1名の方の入学が決まり、今、手続きを進めていただいているところである。皆さんのご努力・ご支援をいただいてここまでとり着け、一定の成果が出せたのではないかなと思う。 ただ、まだまだたくさんの課題があるわけである。意見書の中にも「西谷の資源を活かした魅力ある教育活動の充実」をと入れたが、教育活動については、コミスクという大切な協議の場があり、本検討委員会メンバーも多くの方が関わっていただいている。いろいろお話を聞く中で、そちらの方にシフトしていったらよいのではという思いもある。ただし、この特認校制度を軌道に乗せていくにはもう少し本委員会で検討する必要性があるのではないかなと思い、本委員会を次年度どの程度の頻度で開催するかということも含め、皆さんのご意見をいただきたい。
副委員長	昨日の視察で詳しく伺ってみたところ、本検討委員会のような学校地域協議会というのを毎年3回やっているということだった。
委員	今委員長からあったように、コミスクメンバーとしても重なっているところがあるので、移行するのも一つであると思うが、もう少し軌道に乗るまでこの検討委員会を続投していただきたいと思う。委員長・副委員長もあわせて。
委員	コミスクの方も、今年初めてこのように外部の人を受け入れるスタイルが始まるので、新たに熟議していかないといけない。複式学級も数年目で子どもたちも慣れてきたというのか、システムに乗ってきたところである。やはりもう1年なり2年は、特認校制度の成果や課題について検討するために、まだこちらの委員会とは分けておいてもらいたい。いずれ出てくる地域と学校との取組、という視点については、コミスクでも検討できる部分はあると思う。
事務局	ご意見感謝する。それでは令和7年度も本委員会を開催するということで、引き続きよろしくお願いします。

委員長	要綱で委員長・副委員長の任期を定めているわけではないが、1年半、委員長と副委員長に、本委員会の運営に尽力していただき、いろいろとご負担をおかけした。新年度にあたり、節目というところで、この場で立候補される方がいらっしゃるのであれば拳手いただきたいが、どうか。 ～立候補なし～ 立候補者がなく、引き続き現委員長・副委員長にお願いできないか。 ～了承、拍手～ ありがとうございます。それではまた、委員長と副委員長にはお世話になる。よろしく願います。 指名を受けたので、次は必ず誰かにバトンタッチをさせていただきたいが、もうしばらくだけ頑張って役割を果たさせていただく。副委員長の力強い協力を得てやらせていただく。よろしく願います。 (2) その他 何かあるか。 ～意見なし～
事務局	それぞれの団体の方の改選があるかと思うので、また確認メールを送らせていただくので、後任の方をお知らせいただきたい。
委員長	役員改選時期である。以前にも申し上げたが、もし引き続いてやっていただけるのなら、事情がわかっていただいているのもものすごく嬉しい。新しい方と一緒に入ってもらってもいい。その辺りは各団体の方で調整をいただけたら嬉しい。 では、自治会総会が4月、まち協は5月末であるので、次回の検討委員会はそれ以降にさせていただきます。
事務局	どうもありがとうございました。 視察の報告も感謝する。特認生が30名来ているということで、その増えた要因・定着している要因について整理し、この西谷小中学校でどう生かしていくのかというところを次回お話しできればと思う。 私も、宝塚市ですずっと育ってきて、子ども会で自然の家に行ったり、5年生の転地学習で行ったりして、子どもたちの中で西谷の地域性みたいなものが膨らんでいった。 そういった西谷に対する期待感を、また再び南部地域の子どもたちに発信できるような機会も作っていきたいと思う。次年度も引き続きよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。
事務局	それでは以上で第8回西谷地区学校づくり検討委員会を終了させていただく。ご参加いただきありがとうございました。